



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
発行責任者 宮島喜文  
編集責任者 横地常広

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号  
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722  
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1 第32回世界医学検査学会を終了して

P2~P4 JAMT技術教本シリーズ発刊!

P5 医療施設間の連携で創り上げる「臨床検査技師による病棟業務推進施設情報連絡会」

P6~P7 病棟業務推進ミニシンポジウム企画

P7 コラム記事事務局でのつづきManagement by Belief(MBB):「思い」のマネジメンについて

## 第32回世界医学検査学会を終了して

第32回世界医学検査学会 学会長 宮島 喜文  
(日本臨床衛生検査技師会代表理事 会長)

平成28年8月31日から9月4日にかけて、28年ぶりに日本で開催された第32回世界医学検査学会(The 32nd World Congress of the International Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS2016 KOBE))は、我が国を含む34か国の検査技師約1,200名、国内の学生・教員約900名と、併せて2,000名を超える参加をもって成功裏に終了いたしました。

4年前にこの学会開催の立候補を行い、日本開催が決定されて以来、多くの関係者の方々のご理解と努力により、滞りなく学会の準備と当日の運営が行われました。

学会後のIFBLS役員会でも、今回の学会はエクセレントであったという評価をいただきました。また、学会に参加された会員やご来賓からも学会成功のお祝いの言葉を頂戴いたしました。

\*

本学会で当会の光栄としては、9月2日の開会セレモニーに秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り、ご理解あるお言葉を頂戴したことにとどまらず、その直前に、今回JAMT Scientific FESTAの企画として展示された「震災後のDVT検診活動の実際」「50年にわたる精度保証の歴史と成果、今後の課題」「薬剤耐性菌対策」という3つのブースをご視察いただけたことです。

私自身、このご視察の説明役を務めながら、特に、精度保証に関わってきた多くの諸先輩や当会会員の努力や、被災地という困難な活動環境において使命を尽くした当会会員の努力が、大きく報われたという感慨を深くしました。

国民の健康という課題に真正面から立ち向かってきた臨床検査技師のありかたがこうして皇室家にも伝えられたことは誇らしく、大きな喜びであることを会員の皆様と共有したいと存じます。

また、学会初日の開会式には、臨床検査技師の一人である伊達忠一参議院議長にもお越しいただき、ご挨拶を頂戴しました。各国参加者にとっては、我が国の臨床検査技師が、医療現場での活動にとどまらず、国政にも深く進出、関与する姿は大きな驚きであったと思われます。

\*

いうまでもなく学術面でも、特別企画などの依頼口演を含めた口演数は80本以上、ポスターセッションでも520本を超える発表があり、素晴らしい成果を得ました。ノーベル化学賞受賞の田中耕一先生には特別記念講演を行っていただきましたことも光栄に存じます。前述のJAMT Scientific FESTAも計8つのブースで、主催国としてこれまでにない形式の展示や体験の場の提供となり、海外参加者には新鮮な印象を与



【開会セレモニー】

えました。

学生フォーラムも日本人8名に海外5ヶ国9名を加えて17名が熱く意見交換をしたと報告されています。

企業展示は86社824小間の出展となり、近年の日本医学検査学会を超える規模での開催となりました。多くの企業が英語展示対応を行い、国際学会としてのサービスが行き届きました。

各種の社交行事やラボツアーなどでも、日本人の「おもてなし」の精神は随所に発揮され、海外参加者においてご満足いただき、前述のエクセレントの評価の一部を構成したものと存じます。

当初の予想を超える参加者数から、9月1日のナイトセミナーは海外参加者中心に乗船していただき、この企画を心待ちにしていた国内会員には大変申し訳なかったものの、代替企画として「納涼ビアパーティー」を急遽企画して、学会参加の思い出つくり配慮をさせていただきました。

\*

私自身、開会セレモニーや閉会式などにおいては、慣れない英語でのスピーチにも挑戦しましたが、この国際学会開催を契機に、今後、国際化の時代に対応・挑戦できる会員が大きく増えることを心より祈念しております。職能の開発にゴールはありませんし、その範囲も多彩です。国際化もその一つとしてとらえていただければ、この学会を開催した意義が将来につながるものと確信いたします。

学会の詳細なご報告は、今後、当会の広報媒体を通じて行ってまいります。

以上をもちまして、とりいそぎのご報告とさせていただきます。

会員各位のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。